

# 北代縄文通信

## 「ボランティア活動推進富山県民会議会長表彰」を受賞して

富山市北代縄文広場ボランティアの会 会長 西村 盛一

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、平成26年10月25日に開催された第26回富山県民ボランティア・NPO大会において、ボランティア活動推進富山県民会議会長表彰を受賞しました。

この表彰は、10年以上にわたってボランティア活動を実践し、その活動が優良で他の模範となると認められた個人や団体を表彰するというもので、今回は16個人と13団体が会長表彰に選ばれました。本会も、多年にわたる熱心な活動で地域社会の進展に寄与しているとしてこの榮譽を受けたものです。

北代縄文広場は、平成11年のオープン以来、14万人を超える来場者を迎えています。ボランティアは、幼児から高齢者まで幅広い層にわたるお客様に、展示物の解説や縄文土器づくりの体験学習などを通じて「縄文」の豊かな内容を伝える活動を続けてきました。

ボランティアは地元住民を中心に校区外の者も含めて現在29名が在籍しています。お客様が広場を訪れるきっかけは、学校の社会見学、家族連れの散策など様々ですが、私たちはすべての方々々に満足していただけるよう、いつも「わかり易く」「興味が湧く」説明に努め、いろいろなご質問にもなるべく正しくお答えできるよう、常に関連する歴史や考古学の学習を心がけています。

この度の受賞は、そうした活動を評価されたものとして素直に喜んでいきます。それはまた、縄文広場15年の歩みの中で先輩ボランティアが築いて来られた営みの継承に他なりません。また、富山市埋蔵文化財センターの懇切なご指導をはじめ、常に私たちの活動を支えて下さっている長岡地区自治振興会の方々のお陰であります。この受賞を機に、より一層、ボランティア活動の充実に心がけて参ります。



## 平成26年度の復原建物修理工事が終わりました！

平成23年度に解体したのち、25年度まで長寿命化（耐用年数20年）の検討を重ねた検討した第1号竪穴住居（複製）の修理工事が終わりました。史跡北代遺跡の第70号竪穴住居跡の発掘調査では床面で黄色粘土を主



地下の水・湿気を通さないシートの上にセメント改良した黒土を置き、腰壁の下地とします。



桁・梁など再利用／転用可能な丸太材等を用いて小屋組します。土中に埋まる部分は水や木材腐朽菌からシートで保護します。



体とした屋根土が確認され、これが根拠となって縄文広場では土屋根の竪穴住居として復元されています。施工性などの観点から、これまでは黒土で屋根が復元されていましたが、史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議の議論をとおして、発掘所見を重視して粘土での屋根復元に挑戦することになりました。史跡保護のために遺跡内で粘土を採取することができないので、25年度に行った実験結果を踏まえ、富山県小矢部市産の赤土（瓦用粘土）を母材に川砂等をブレンドした屋根土を用い、赤土屋根の竪穴住居を復元しました。



クリ・スギ樹皮葺き後、内側に吸放湿性能をもつ塗壁材を塗った木毛セメント板を敷設し、屋内の湿度環境を改善させると共に屋根の下地材としました。



土屋根に浸透した雨水対策のシート等を敷設した後、草が定着しにくく、亀裂が生じやすい赤土が流出しないよう、ハニカム状型枠を屋根土層内部に使用しました。



厚さ 15cm の土屋根は、最下層を全面軽石（大粒）層にして丸太材にかかる荷重を軽減させました。中層には小矢部市産の赤土と軽石（中粒）を混ぜて叩き締め、上層は赤土と軽石（細粒）を混ぜて叩き締めました。軽石は浸透した水を排出する空隙があり、これによって屋根土内を乾かすことができます。軽石には保水性もあり、夏季には散水することで屋根表面の細粒が若干の水分を保ち、赤土の亀裂を防ぐことにしました。

富山市北代縄文広場ボランティアの会 平成 26 年度研修旅行記

## 飛驒の史跡と下呂石の源流・峰一合遺跡、城下町郡上八幡を辿る旅

守田 章

富山市北代縄文広場ボランティアの会は、平成 26 年 11 月 5 日（水）～6 日（木）の 2 日間にわたり、「神岡・江馬氏館跡」「高山市・堂之上（どうのそら）遺跡」「下呂市・禅昌寺」「下呂・峰一合遺跡」「郡上八幡城・城下町」等々を訪問しました。秋晴れのよい最高の天気の中、参加者 14 名（女性 5 名、男性 9 名）で、朝 9 時に最初の訪問地、神岡・江馬氏館跡へと出発しました。

今から約 400～500 年前の室町時代、高原郷（いまの神岡町や高山市上宝町）を治めていた武士が江馬氏だったとのこと。江馬の殿様がをつくったと伝えられている 6 ヶ所の山城と、殿様が暮らす 1 つの館の跡をまとめて「江馬氏城館跡」と言い、「国史跡」に指定されている。私たちが見学したのは、殿様が日々暮らしていた



下館跡である。館跡は水田として利用されてきた。水田の中に残る大きな5つの石を「五ヶ石（ごかいし）」と呼び、「江馬の殿様の庭の石である」と伝えられていた。昭和51年から発掘調査が行われ、昭和55年には6ヶ所の山城とともに国史跡の指定を受け、平成12年からの工事で庭園、庭園を鑑賞する会所建物、主門、土堀等が復元された。いろいろと説明を聞きながら会所の接客の間から今日のような天気の中、お茶でも飲みながら庭園を眺めれば殿様気分が味わえるかも！と思いながら後にして高山で昼食をとりました。

昼食後第二の訪問施設、岐阜県久々野町の堂之上遺跡・資料館を見学した。この場所は従来畑であったが、中学校の駐車場にするため町が買い上げ設置までの期間、中学生が花壇づくりをしていて「石囲炉」を発見し、昭和48年から緊急発掘調査が始まり、昭和55年に縄文時代の遺跡として国史跡に指定された。堂之上遺跡は、今から約5,500年～4,500年前の縄文時代前期～中期の集落跡が明らかになったとのこと。住居跡は調査の結果43軒発見され、一時代の個数は5～6軒と推定されるとのこと。復元されたのは切妻住居1棟・寄棟住居2棟、材料は栗の木等、藤のつる、北代縄文広場と違って茅葺きである。歴史民俗資料館の中の考古資料展示室の出土品は、縄文時代草創期～晩期までの長期間にわたる多様な遺物が展示されていた。民俗資料展示室には明治・大正・昭和の生活が分かる民具が多く展示され、歴史資料展示では久々野町内旧村の全体の当時を知る資料が保管され見ごたえのある資料館でした。

本日三番目に見学にしたのは、下呂・禪昌寺（永和三年[1377年]、円通時として開創）です。紆余曲折を経て、天文元年[1532年]に飛騨国主の三木直頼公により再興された三木氏の菩提寺です。宗派の内外を問わず心のよりどころとして広く信仰を集めているとのこと、建造物は多く、庭園も手入れが行き届き、寺宝も多種多様で、仏像は釈迦牟尼仏・観世音菩薩・薬師如来等々見ごたえのある寺院でした。中でも雪舟筆の大達磨は別名「八方にらみの達磨」と言われているだけあって感動しました。また、推定樹齢1300余年、禪昌寺大杉（樹高45m・周囲12m）も立派でした。時間があればもう少しゆっくりと見学したかったです。今日はこの後、宿泊先の下呂温泉ホテル紗々羅にて一泊！！



二日目、朝8時45分、今日の最初の見学施設「下呂ふるさと歴史記念館・峰一合遺跡」へ出発。天候は晴れ。峰一合遺跡は縄文公園の一角にあり、今から約5800年前の縄文時代前期と約1800年前の弥生時代後期の集落遺跡で、発掘後史跡公園として整備されました。縄文時代前期の復元住居が二棟、弥生時代の復元住居が一棟と発掘当時の竪穴住居跡の保存館があり出土品は記念館に展示。ふるさと記念館の第1展示室（「下呂の歴史の幕開け」）は旧石器時代～平安時代の展示です。下呂石の原産地・湯ヶ峯の麓にある旧石器時代の大林遺跡の出土品、峰一合遺跡出土品、弥生時代遺物、奈良・平安時代の食器がありました。峰一合遺跡出土パン状炭化物の展示が興味深かったです。第2展示室（「下呂の人々とその歩み」）は室町時代～江戸時代の展示、第3展示室（「下呂の過去から現在へ」）は明治時代～昭和時代の展示で、時代の歩みが分かる資料館でした。そのほか1階には縄文体験ルームがあり、古代アクセサリ、縄文土製品製作、ミニチュア縄文土器を製作することができます。北代縄文広場では土器を野焼きで仕上げますが、下呂ふるさと記念館の縄文土器の仕上げは、今風のオープンレンジで焼くとのこと、少々認識をあらたにしました。

下呂ふるさと歴史記念館を後にして次に向かったのは、ささゆりトンネルを抜け、水とおどりの城下町郡上八幡へ。まずは、八幡城見学へ徒歩15分かけ登りました。坂道がきつかった。八幡城は、永禄2年[1559年]に4層5階建てで築城されました（日本最古の木造再建城）。天守閣からの眺めは絶景、紅葉も盛りで城下町が一望で



堂之上遺跡の復元茅葺住居



下呂ふるさと歴史記念館モニュメント

き、逆に城下町のどこからでも八幡城が見えて、なかなか見ごたえがありました。麓のホテル積翠園にて昼食。郡上八幡博覧館では郡上踊りの実演や地元の多くの資料を見学しました。郡上おどりは、夏の夜 32 夜踊られる盆踊りで国の重要無形民俗文化財で、日本三大民謡のひとつに数えられているとのこと。8 月 13 日～8 月 16 日までの 4 日間朝まで踊り明かされる徹夜踊りは有名です。城下町は多くの名称があるところです。案内人に説明を受け、城下町を散策しました。これで 2 日間の研修旅行の日程を終了。私はボランティアに入会して 1 年少々経ち、はじめての研修旅行でしたが、今回はたくさんの施設を見学していろいろと勉強になりました。私を感じたのは、立派な資料館や広い敷地を維持管理するのはどの施設でも苦勞が見てとれました。NPO 法人、シルバー人材、ボランティア等たくさんの人たちの力が必要であると思います。私も微力ながら協力していきたいと思っております。参加された皆様方お疲れ様でした。

## 研修旅行に参加して一訪問施設の説明員の方々から熱い心を学ぶ一

中西登代子

最初に訪れた江馬氏館跡は、飛騨と越中を結ぶ越中街道と、関東方面を結ぶ鎌倉（信州）街道に通じ、高原川を通じた水運によっても越中と信州・関東方面を結ぶ交通の要所でした。館跡の出土品は、この一帯が日本海と太平洋側の物流の拠点であったことも示しています。庭園の復元から往時の姿が偲ばれるとともに、この時代に地方の武将も京都の文化（花の御所）を取り入れつつ、独自性を盛り込んだ武家館庭園を築いた重要な事例であると言えます。

高山市久々野町の堂之上遺跡は高台にあり、復元された竪穴住居集落は紅葉が盛りでとても美しい景色でした。芝に腰をおろして説明を受けました。案内された方は、かつて富山県で勤務経験のある公務員 OB で親近感を得ました。

二日目は下呂市の峰一合遺跡を見学しました。下呂温泉東方にある湯ヶ峰から産出する下呂石は北代遺跡からも出土しています。立派な下呂ふるさと歴史館では、学芸員さんから詳しい説明を聞くことが出来ました。

研修を通じて私を感じたのは、私たちを案内して説明して下さった方々が皆さんとても丁寧に熱く語られたことでした。

私もボランティアとして、北代縄文広場を訪れて見学研修される皆さんに常に新鮮で熱い心で接することが大切であると思いました。



堂之上遺跡での研修風景

富山市北代縄文広場ボランティアの会 会長新任ご挨拶

## 自分自身が楽しく生き生きと

西村盛一

平成 26 年 4 月から会長を務めています。

私はボランティアの活動経験が浅く、極めて未熟ですが、地元長岡地区（ハヶ山）に在住していることから、皆さんの要請を受けました。会員相互の親睦や研修のお世話ぐらいは出来るだろうと思ってお引き受けした次第です。

ボランティアの本務は来場者へのサービスですが、同時にボランティア自身が楽しく、豊かな気持ちで活動できていることが大切だと思っています。会員同士の意思疎通を図り、生き生きした仲間づくりを心掛けて参ります。



北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第 40 号：編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター